

営農情報

第1号 平成25年5月24日発行

(水 稻)

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

最近の米は、登熟期の高温による背白や腹白などの乳白、及び充実不足が多くなり品質が低下しています。対策として、**田植時期を遅らせることが重要**です。

～ポイント～

- ◎田植予定日から逆算して、種子の浸漬日や播種日を決めます。
- ◎高品質米生産のため、田植は6月20日以降に行います。

1 種子消毒

- (1) 種籾10kg当り下記農薬の混合薬液20リットルを用い、24時間浸漬します。

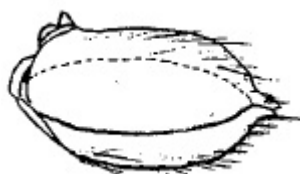
薬剤名	使用濃度 (種籾10kgあたり使用量)
テクリードCフロアブル	200倍 (100ml)
スミチオン乳剤	1000倍 (20ml)

- (2) 浸漬中は薬液を2～3回かき混ぜ、全体に薬液がまわるようにします。
浸漬後はそのまま催芽します。
- (3) 種子消毒に使用した薬液は、河川・クreek等に絶対流さないでください。

2 浸種及び催芽

- (1) 種子消毒後、4～5日間浸種します。
- (2) 催芽 (芽出し) の程度は、鳩胸程度～1mm位が適当です。また、種籾が酸素不足にならないように、**浸種中の水は毎日交換する**とともに、種子の芽出しをそろえるため**上下を入れ替えます**。
- (3) 浸種する場所は、発芽ムラや高温障害の原因になるため、直射日光が当たるところは避けてください。

この程度まで催芽させる (鳩胸程度) →



(裏面につづく)

3 播種及び出芽

- (1) **播種量は、苗箱当たり乾燥籾で約140～160g、催芽籾では約1.5～1.8合の薄播き**にします。
- (2) 播種時にかん水を兼ねて、苗箱20箱当り水10リットル当りタチガレエース液剤20ml（500倍）を混ぜて、かん注します。
- (3) 健苗育成及び育苗中の病害発生予防のため、**平床出芽を基本**として下さい。

<平床出芽を行う場合>

- ① 日当たりの良い均平な場所にビニールを敷き、台木を並べます。
- ② その上に育苗箱を並べ、カンレイシャの二重掛けをします。
- ③ 苗丈が4～5cm程度（播種後7日程度）になったら、カンレイシャを一重にします。その後、苗の伸び具合を見ながら、5～7日程度経過したらカンレイシャを取り除きます。

<積み重ね出芽の場合>

- ① 育苗箱を10段程度積み、さらに押さえ箱を置き、シートで覆います。さらにムシロ等で覆い、温度が35度以上に上がらないようにします。
 - ② 置く場所は、直射日光のあたるところは避けます（高温障害を受ける）。
 - ③ 芽が1cm位に出そろい次第（約3日）平らなところへ広げ、カンレイシャを二重にかけ、緑化させます。
 - ④ 緑化したら、カンレイシャを一重にし、苗の伸び具合を見ながら管理します。
- (4) 水管理は、天候によりますが、カンレイシャ二重の期間は1日1～2回、カンレイシャ除去後は1日2～3回ジョロ等で十分かん水します。天候により乾きやすい場合があるので、十分注意しましょう。

※ 注 意 ※

「元気つくし」を育苗する場合、「元気つくし」は苗が伸びやすいので、「ヒノヒカリ」よりも1～2日早めの寒冷紗の管理を心がけて下さい。